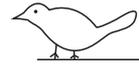


[特集]そよかぜと資源回収。

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第140号
発行2020.1.19
年4回発行



社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
☎042-578-0855
fax.042-578-0466

そよかぜだより

新春を迎えて

加藤照夫

社会福祉法人そよかぜ理事長

新年明けましておめでとうございます。皆様が輝かしい新春を迎えられたこと心からお慶び申し上げます。そして、今年は今和の元号初の新年となり人生の目標も一回り大きくなったことと思います。

昨年は、自然災害が全国的に多発して大勢の皆様が被害が出ておりお見舞い申し上げます。そよかぜの災害対策につきまして、その状況を事前に判断して利用者の通所に対する安全対策をしっかりと立て実施しております。

本年は、社会福祉法人改革の目的でありました法人経営の公開性、しっかりとした組織体系に基づいた支援活動の充実など、施設の特性や取扱業務の改革を進めながら施設通所の意欲向上が図れる環境づくりに努めていきたいと思っております。

施設運営のソフト面での充実をさらに高める初年度としていきたいことから皆様の変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



社会福祉法人
そよかぜ 役員

理事長
加藤照夫

副理事長
井上克巳

理事

田村義明
田口尚子

羽村富男
堀内政樹

監事

羽村義男
石田茂

評議員

川津紘順
橋本唯隆

水上京子
橋本芳明

川村孝俊
下田忠男

栗原悦男
田村志津子



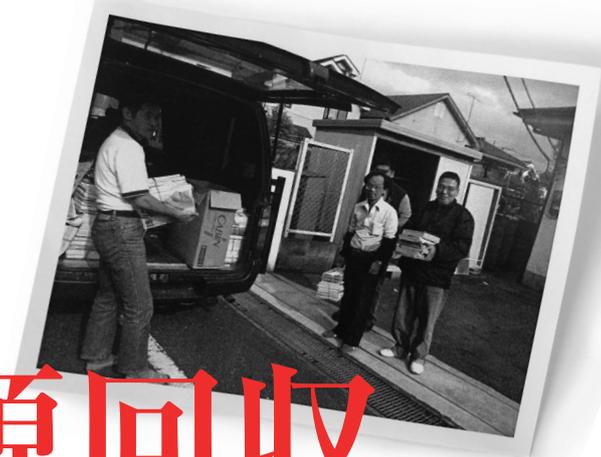
地域の皆様を支えられて今日まで続けてきました資源回収事業は、そよかぜの事業の中で最も古い歴史を持つものです。その起源をたどると、昭和52年(1977年)親の会作業所作りのため資源回収とバザー開始とそよかぜホームページの法人沿革に記載があります。実に42年もの長きにわたり、皆様の温かいご支援をいただきながら、そよかぜを支えてきた大切な事業です。ちなみにバザー開始のバザーは、現在のリサイクルショップくれよんに繋がっています。この二つの事業に共通するのは、地域の皆様の“手渡し”のご協力が事業運営の原動力になっていることです。あらためまして、心より厚く御礼申し上げます。

以前、本誌第111号(2013年4月発行)でも、「資源回収」を取りあげたことがあります。このとき、法人理事であった故西岡英一氏が、資源回収を始めたころのエピソードを記しています。当時の様子が偲ばれる内容ですので一部抜粋してご紹介します。

『いまから35年ほど前、障害児の親たちが作業所作りのために始めた古新聞や古雑誌の回収は廃品回収と言われていました。資源ではなく廃品だったのです。家庭で不要になったゴミを集めてお金にしようというね

らいですから、「みっともない」とか「乞食のようだ」というかげ口もありました。作業所ができてから、障害のある人の仕事としての廃品回収もはじめました。前の五ノ神の作業所から羽村団地は、障害のある人がリヤカーを引いて行くにはちょうどよい距離でした。企業からの下請け仕事などとても手が届かない重い障害を持った人たちにとって、ほどよい運動と収益を兼ねた仕事でした。今日は1号棟、明日は2号棟と一ヵ月で全棟を廻り、五階まで階段を上がり下りして古紙を運ぶ作業は団地住民の方からも喜ばれました。ただ、古新聞等を満載したリヤカーに数人の利用者と職員が張り付き、2台、3台と連ねて町の中を歩く姿は、かげ口も当然だなーと我ながら納得したものでした』

こうした先輩方の長年にわたるご苦勞や地域の皆様のご支援の上に今の資源回収事業があるということを思い、この事業の大切さがあらためて痛感されます。



【特集】

そよかぜと資源回収

新年を迎えるにあたり、今号の特集は「資源回収」を取りあげました。そよかぜの事業の中で、地域の皆様にも最も身近なものの一つといえるのではないのでしょうか。

回収物の出し方について

利用者も作業をしやすくなりますので、以下のようにまとめていただけますと助かります。ご協力の程、よろしくお願いいたします。



【ダンボール】

ひもやガムテープでまとめてください



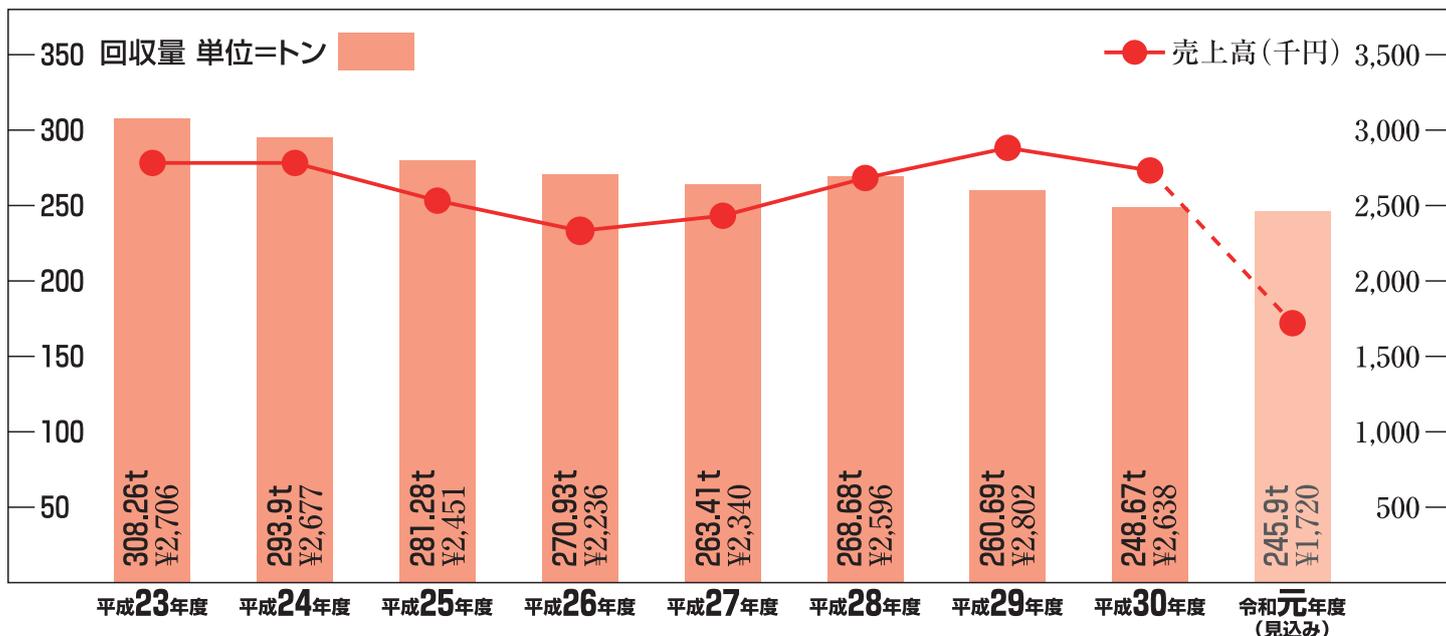
【新聞・雑誌・雑紙】

袋やひもでまとめてください



【シュレッター】

やぶれにくい袋に入れてください



昨今の古紙単価

資源回収事業は、法人収益事業としての資金集めだけでなく、福祉作業所ひばり園利用者の仕事として、また、地域の皆様へ障害福祉の実情や障害福祉サービス情報などをお届けするPR広報の手段として、その役割を果たしてきました。しかし、近年の社会情勢等を反映し、様々な課題がでてきました。主なものを三つ挙げると、一つ目は**古紙引き取り単価の下落**「これまでの需給の傾向は、国内消費が落ちた時は輸出が伸び、輸出が落ちた時は国内消費が伸びていたが、今年は一マンショック後と同様、国内と輸出の両方の消

費が落ちたことで、メーカー・問屋共に在庫量が急増している(インターネット古紙情報より)」、二つ目はインターネット等の急速な発展普及により**新聞を購読しない家庭が急増**し、古紙回収主要3品、新聞・雑誌・段ボールの中で最も収益性が高い新聞の回収量が減少(収益減)、三つ目は資源回収作業を担ってくれる**スタッフの確保難**、などです。

そよかぜの努力で何とかなるものとそうでないものがあり、できることは「地道に粘り強く取り組む」そうでないものは「快復を祈る」という状況です。

資源回収のこれから

資源回収の作業は、冬の寒さ、夏の暑さ、雨の日、風の日、穏やかな晴天の日など、天候によって厳しかったり楽しかったりします。一台の作業車両にドライバーと作業員2名の3名1チームが協力して行います。回収先は、市内(一部市外)の企業、学校、お寺、個人宅などを廻り、「雨の中、大変だね」、「ごろうさま」、「来てくれて助かる」など皆様からいただく温かい言葉を励みに頑張っています。先に述べたように、様々な課題はあります。でも、そよかぜ資源回収40余年の歴史は常に課題を抱えつつ努力してきた歴史であると思います。私たちはこれからも、地域の皆様のご支援を力にして、先輩方から託されたこの事業をしっかりと継承してまいります。

そよかぜ資源回収事業が抱える課題の一つとして、**作業スタッフの確保難**をあげました。高齢化が進む今のスタッフの後に続く人材の確保育成が急務となっています。こうした要請に対して、法人本部総務担当を中心に資源回収だけでなく広く法人事業にボランティアのご協力をいただくための組織的な取り組みを行うことになりました。現在、ボランティア活動のしおりやボランティア受入規程等の整備を進めています。いずれ皆様のもとに「社会福祉法人そよかぜからのお願い」として、ボランティア募集のお知らせをお届けします。その際には、ぜひ皆様のご理解とご協力を賜りたく、心よりのお願いを申し上げます。

広まる自転車社会から

通勤や通学、買い物などで自転車が活躍する機会も多いかと思えます。休日には軽快にサイクリングを楽しむ方も増えたり、技術も進歩して電動アシスト付きの自転車の普及も目覚ましかったりしています。

自転車は、自動車と違って環境にやさしい乗り物です。当法人の利用者の方々も多くが通所される際に自転車を利用されています。とても便利な自転車ではありますが、警視庁の事故統計によると平成30年中に発生した全交通事故の約20

%が自転車関連の事故だったそうです。自転車事故の分析で特徴的なこととして、8割が自動車との衝突事故で65%近くが自転車側に何らかの法令違反があったということです。現在、自転車事故は自動車事故と違い自動車のような強制保険(自賠責保険)がありません。便利性に反して事故の補償は自動車と同じくらい重いものであるということを知っておくことが重要です。

過去の自転車による加害事故例では判決容額で9,000万円を超える事例も

コラム「福祉の時をつかむ」

あります。万が一に備え、自転車保険に加入することも必要ですし、保険会社によってはご家族の自動車保険や火災保険などに特約として加入することも出来るようです。(令和2年4月1日より東京都も自転車損害賠償保険等への加入が義務化になります)とても便利な自転車ですが道路交通法上は、軽車両であり自動車と同じ車両であることを理解することが大切です。新しい年のスタートとして安全に配慮した自転車ライフを送っていただければと思います。

そよかぜホームページ <https://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

お正月休みが終わり1月6日から仕事始めでした。午前中に2階作業室と就労移行支援合同で初詣に行き、新年のご挨拶とお願ひ事を神様にした後、各々お守りやおみくじを買い、楽しそうに過ごしていました。移動の最中には、久しぶりにみんなで顔を合わせ、楽しそうにお正月の話題で盛り上がっていました。合同での外出という事で、日ごろ話さない人とも談笑し、いい仕事始めになりました。気の

早い方は今からゴールデンウィークの休みを楽しみに仕事に励むと神様と約束をしたそうです。

リサイクルショップくれよん

昨年もおたくさんのご来店・ご提供ありがとうございました。先日、テレビはむらの取材がありました。緊張していた方、興味津々な方、いつもと変わらない方など色々な表情を見ることが出来ました。くれよんでは春物が始まりました。引き続き冬小物・冬物コートの半額セールを実施中です。まだまだ寒い日が続いておりますのでお買い得価格で防寒対策にいかがでしょうか?是非お立ち寄りください。今年も皆さまのご来店を心よりお待ちしております。

福祉作業所スマイル工房

新年茶話会を令和2年初開所日に行いました。参加利用者様と一緒に職員手

づくりお雑煮を美味しくいただきながら、お休み中の様子や今年の目標についておしゃべりしながら楽しくワイワイ盛り上がり、笑顔の交換会になりました。本年も利用者様、皆様にとって素敵な一年になりますように。どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。

障害者就労支援センター エール

エールは、社会福祉法人そよかぜが羽村市の区市町村障害者就労支援事業の委託を受け、平成20年9月に開設した就労支援センターです。羽村市在住の障害のある方で、一般企業等への就職を希望されている方やすでに働いている方を対象に、就労に関するご相談や支援を行なっています。

利用時間：月曜～金曜日、午前9時～午後5時。各月の第一土曜日は開所。

※ご相談は予約をお願い致します。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

明けましておめでとうございます。感謝の気持ちを表す言葉である「ありがとう」の語源には諸説あります。平安時代の随想枕草子には「有り難し」すなわち「この世にあるのが難しい、存在しがたいもの」とあります。そよかぜが資源回収を続けられているのは、地域のみなさまのご協力あってのことです。それは決して当たり前のことではない、このことを胸に今年も一年感謝の気持ちを持って回収作業に取り組もうと思います。本年もよろしくお願いいたします。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局	☎042-578-0855
福祉作業所ひばり園	☎042-555-5512
福祉作業所スマイル工房	☎042-578-2723
リサイクルショップくれよん	☎042-578-2575
羽村市障害者就労支援センター エール	☎042-570-1233
指定特定相談支援事業所ゆい	☎042-555-5512